

日豪ウラン資源開発株式会社

設立：昭和55年（1980年）9月12日

代表者：代表取締役社長 豊松秀己（関電の常務取締役）

所在地：大阪市北区中之島3丁目6番16号（関電ビル内）

事業内容：オーストラリア他におけるウラン資源の開発、天然ウランの取得および販売その他の関連事業

株主：関電：50%

九電：25%

四国電：15%

伊藤忠：10%

- オーストラリア西部のレイクメイトランド（Lake Maitland）
- 南オーストラリア州ゴラークレイトン（Gawler Crato）の2地区
- 北部のレンジャー（Ranger）鉱山：操業中、拡大を計画

関西電力グループ、南オーストラリア州鉱山会社と初のウラン探査プロジェクト開始（2008年5月）

関西電力<9503>は26日、南オーストラリア州の初期探査段階のウラン鉱区における、ウラン探査プロジェクトに参画する事を発表した。同プロジェクトでは、同社が出資している日豪ウラン資源開発（日豪ウラン）を通じて参画し、地元鉱山会社のクエイサー社（Quasar Resources Pty）と共同で実施するという。

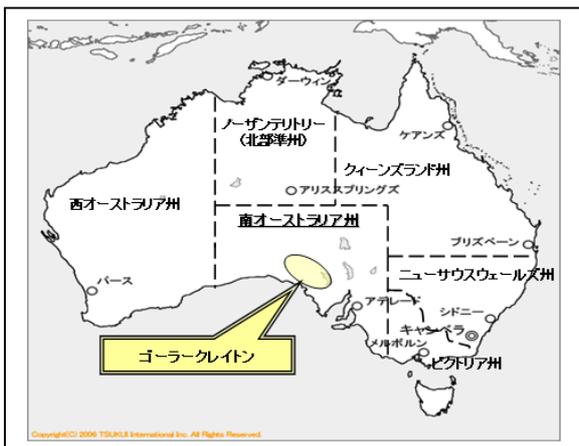
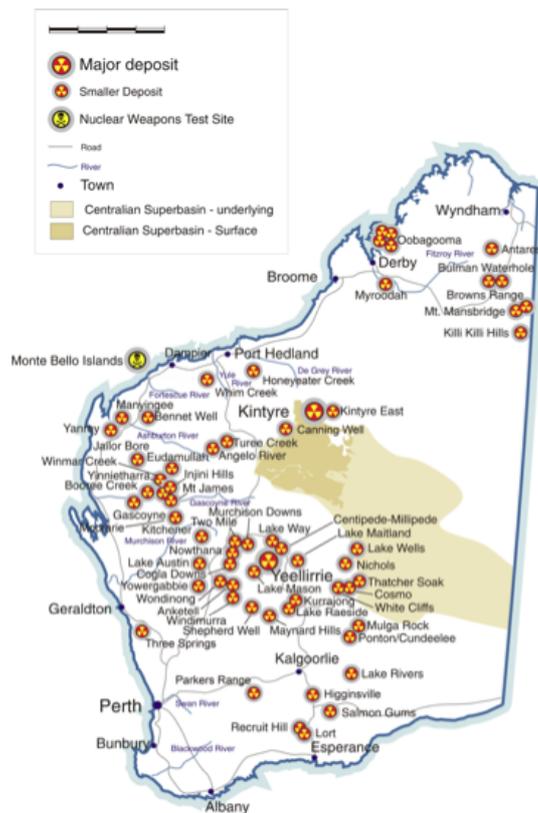
ウラン探査プロジェクトは、ウランの採掘が期待される鉱区において、試掘作業や物理探査を行い、燃料として使用するウランの発掘を目指すものである。日豪ウランは、1980年9月に設立し、関西電力が50%、九州電力が25%、四国電力が15%、伊藤忠商事が10%の出資をしており、オーストラリア他におけるウラン資源の開発、天然ウランの取得および販売その他の関連事業を手がけている。

クエイサー社は、2002年7月に設立し、ウラン調査と開発を手がける地元鉱山会社である。今回探査を行う鉱区については、クエイサー社や、ウラン探査の専門家などの現地調査等を踏まえて選択。南オーストラリア州ゴラークレイトンの2地区で、それぞれ4年間をかけて行う計画である。同プロジェクトにより、日豪ウランは、両地区において20~25%の権益を取得する予定だという。ウランの調達に関して、今回のような探査プロジェクトに参画するのは同社グループとして初の試みとなる。同社は、同プロジェクトで得られる知見やノウハウを今後のプロジェクト参画等に活かすとともに、燃料の安定調達先の確保に努めていくという。

【IB Times より】

2008-wa-brief-map.jpg (JPEG 画像, 4335x6547 px) ...

http://uraniumfree.files.wordpress.com/2009/11/20...



## 関西電力、オーストラリアのウラン鉱山開発プロジェクト事業化調査へ参画

### 西オーストラリアにおける新規ウラン鉱山開発プロジェクトのフィージビリティスタディ(事業化調査)への参画について

当社はこの度、ウランの長期安定確保のための取組みの一環として、当社が出資している日豪ウラン資源開発株式会社(以下、日豪ウラン)を通じて、カナダのウラン鉱山会社であるメガ社(Mega Uranium Ltd)がオーストラリアで進めている、新規ウラン鉱山開発プロジェクトのフィージビリティスタディ※に参画することとしました。

※フィージビリティスタディ・・・ウラン鉱山開発プロジェクトにかかる法制面および技術面の検証、建設や運営にかかる費用の積算、必要となる資金調達の可能性の検証等。

本プロジェクトは、メガ社が西オーストラリア州の東部ゴールドフィールド地域に権益を保有する鉱区(レイクメイトランド)を対象とするもので、ウランの推定資源量は約9,100トンと見込まれており、平成23年の生産開始を目指して、フィージビリティスタディが進められています。

今後、日豪ウランがフィージビリティスタディの結果を踏まえ、本プロジェクトの開発への参画を決定した場合、同社は30%のウラン権益を取得する予定です。

当社としては、今後も、原子力発電所の安定運転のため、ウランの長期安定確保に取り組んでまいります。

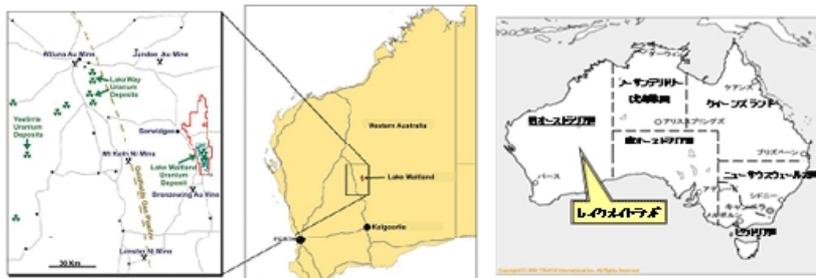
別紙1

#### 西オーストラリアにおけるウランプロジェクトの概要

##### <実施場所>

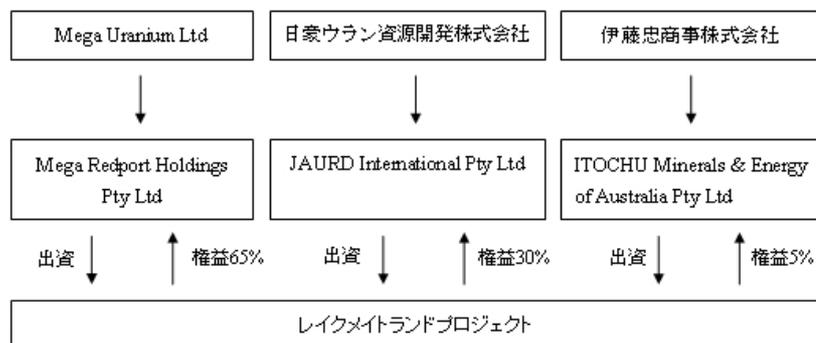
西オーストラリア州・州都パースの北東約700km  
東部ゴールドフィールド地域レイクメイトランド

##### 【位置図】



##### <参画した場合の形態>

・カナダ法人の鉱山会社であるメガ社および伊藤忠商事との共同実施

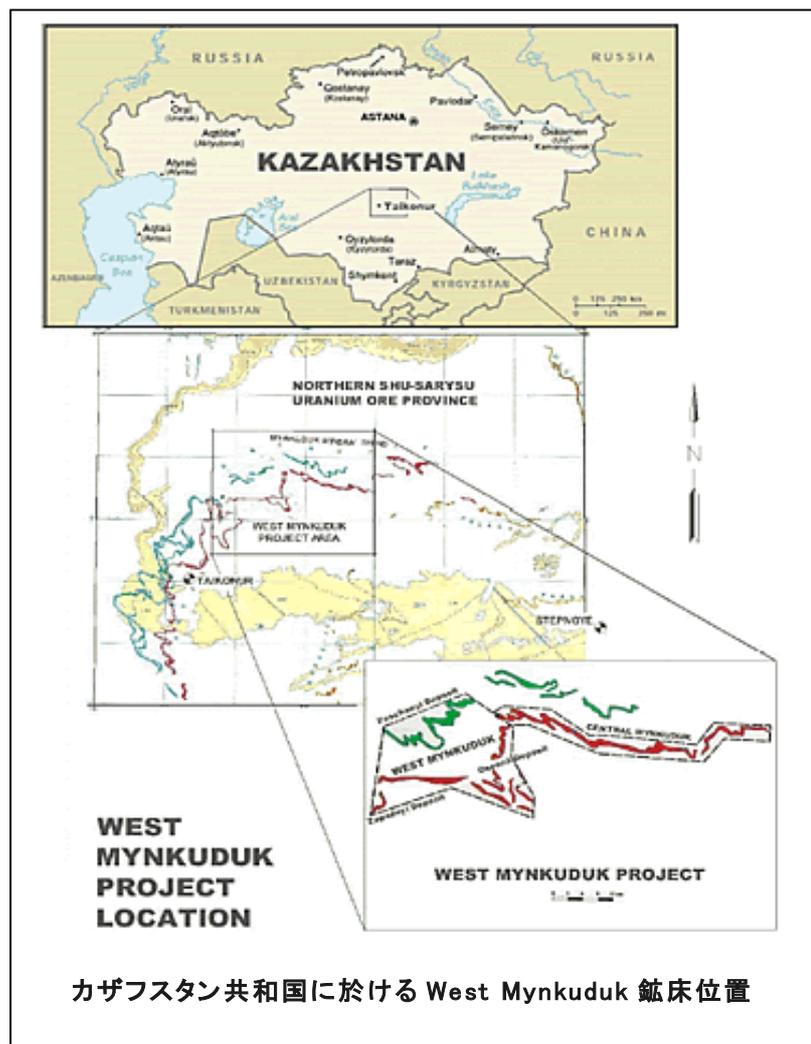


**住友商事株式会社と関西電力株式会社、カザフスタン共和国に於ける  
新規ウラン鉱床開発プロジェクトに参画**

2006年01月23日 住友商事株式会社

【概要】 住友商事株式会社（社長：岡 素之、以下住友商事）は、カザフスタン共和国の国有原子力会社カザトムプロム社（National Atomic Company Kazatomprom：以下KAP社：社長：モフタル・ジャキシェフ）と、関西電力株式会社（社長：森 詳介、以下関西電力）と共に、同国南カザフスタン州に於いて、新規にウエスト・ムインクドゥック（West Mynkuduk）ウラン鉱床を開発する事となった。具体的には、KAP社が所有する同鉱床の開発権益を有する合弁会社であるAPPAK社に、住商、関電が投融資を行う。KAP社、住商、関電間の出資比率は、各々65%、25%、及び10%であり、当初所要資金は約1億ドルである。合弁会社は、同鉱床の開発のみならず、ウラン精鉱の生産・販売も行う。現在の開発計画では、早ければ2007年頃より試験生産を開始し、2010年頃迄にウラン量にして年間1,000トンのフル商業生産へ移行する予定。鉱山寿命は約22年であり、累計ウラン産出量は、約18,000トンを見込む。同鉱床では、原位置抽出法（In-Situ-Leaching法）と呼ばれる、競争力の有るウラン採鉱法を採用する予定であり、生産されるウランは、基本的に日本市場にて住友商事が販売する予定。

【背景】 現在、世界のウラン需要は、約65,000トン／年であるが、鉱山から産出されるウラン（1次供給）は年産約35,000トンに留まっており、残りはいわゆる2次供給（商用在庫及びロシア核兵器解体より生じるウラン（解体核）等）により賄われている。今後2次供給量の急速な減少が予測される事から、既にウラン価格も上昇傾向にある。カザフスタン共和国は、ウラン生産量では現在世界第3位、保有資源量は世界第2位の地位にある。同国では、現在年産約3,500トンのウラン生産を、2010年には約15,000トンへ増産を計画しており、大手のウラン生産会社（CAMECO、COGEMA）および政府レベル（中国、韓国、ロシア）によるウラン鉱山開発事業への参画が活発化しており、国際的なウラン資源確保の舞台になっている。一方、日本の年間ウラン消費量は約8,000トンで、世界第3位の消費国であるが、日本政府も世界第2位の埋蔵量を誇るカザフスタンを有望な供給国と捉え、民間企業によるウラン資源確保に関する支援策の検討を開始している。また、投資によるカザフスタンへのウラン鉱山開発事業への参画は、日本で初めてである。住友商事は、過去35年以上に亘ってウラン販売に関与してきた経験から、ウラン権益を確保し、日本の国益にも資することを目的の一つとして本プロジェクトへの参画を決定した。（本プロジェクトの生産量は、日本の年間需要の約1割程度に相当し、日本のエネルギーセキュリティに大きく貢献すると考え、温暖化排出ガスの問題、原油価格の高止まり等々を考えるとクリーン・エネルギーとしての原子力の重要性は世界規模で増してゆくものと考えており、住友商事としては将来原子力サイクルのValue Chain構築を目指す中で、今回の合弁事業をその端緒と位置付けており長期的な視点で取り組んで行く予定である。住友商事は、之まで海外ウラン鉱山の代理店として、長年ウランを販売してきたが、今後は自らウラン鉱山を有する、サプライヤーの立場で、ウラン販売を行っていく予定である。



(引用者注：2008年6月に同鉱山の開所式が行われています。)

## カザフスタン共和国における新規ウラン鉱山開発プロジェクトへの参画について

[2006年1月23日 関電/プレスリリース]

当社は、住友商事株式会社とともに、カザフスタン共和国の国有原子力会社であるカザトムプロム社が推進している新規ウラン鉱山開発プロジェクトに参画することとし、本日、同国において参画に伴う協定に調印しました。

本プロジェクトは、カザトムプロム社が南カザフスタン州のウエスト・ムインクドゥック・ウラン鉱山を新規に開発するもので、平成19年頃から試験生産を開始、その後、平成22年頃までに年間ウラン生産量約1,000トンのフル生産に移行して、平成40年頃まで生産を行い、累計ウラン生産量は約18,000トンと見込まれています。

当社の本プロジェクトへの参画については、住友商事株式会社とともに、カザトムプロム社が昨年7月に同鉱山の開発を目的として設立した事業会社アパック社に投融資を行うもので、これにより、当社は、同鉱山より生産されるウラン精鉱の優先引取権を有することになります。なお、各社の参画比率は、カザトムプロム社65%、住友商事株式会社25%、当社10%です。

当社は、これまでから、ウラン鉱山開発プロジェクトへの参画をウラン調達を中心に位置付けて、他の電力会社と共同で開発を行う事業会社に参加し、ウランの長期安定確保に努めてまいりましたが、カザフスタン共和国は、世界第2位のウラン資源埋蔵量を誇るとともに、比較的政情も安定していることから、本プロジェクトの参画は、ウランの長期安定確保をより強固にするものと考えています。

当社としては、今後も、原子力発電の安定性、経済性の観点から、ウランの長期安定確保に努めてまいります。

<別 添>

### <ウエスト・ムインクドゥック・ウラン鉱山の概要>



- ◇位置 : カザフスタン共和国南部
- ◇累計生産量 : 約18,000トン
- ◇平均品位 : 0.035% (注1)
- ◇採鉱方法 : ISL法 (原位置抽出法) (注2)
- ◇生産能力 : 約1,000トン/年 (フル生産時)

(注1) 鉱石の中に含まれるウランの重量比率。一般的に、品位が高いほど、同じ量のウランを得るために採鉱する鉱石量は少なくなる。

(注2) 鉱山から鉱石の採掘をせず、適切な地層に限り、鉱山そのものに直接溶液 (希硫酸) を流し込み、ウランを溶液中に溶出させて抽出する採鉱方法。